

インクルーシブの窓

令和6年3月 富山県教育委員会県立学校課特別支援教育班



インクルーシブ教育推進員の学校訪問日記～その5～



子どもたちが安心して学ぶことができる教室環境

A 小学校の知的障害特別支援学級では、学年が異なる複数名の児童が担任の指導のもと教科の学習に取り組んでいました。一人一人の座席の横には衝立代わりになる大きめのホワイトボードが設置され、その時間の各自の学習予定表が貼ってあります。

2年生の児童は、国語の教科書の音読やプリント等の学習活動に取り組み、一つの活動が終わると学習予定表に○印を書き、次の課題を確認して自分で学習を進めていました。担任は、全員に目を配り、必要に応じて視覚的な手がかりを使い個別の指導を行っていました。

B 小学校の通常の学級では、教室の前面に掲示物が貼ってありません。黒板は全面が使えるようになっています。子どもたちと一緒に作った学級目標や係分担の表等は教室の側面や後ろに貼ってあります。また、子どもの机の中や横も、必要な物が精選されていることが伺えました。教頭先生は「子どもたちが集中しやすく、落ち着いて学べる教室環境作りを目指しています。」と話していました。

ほとんどの小中学校で、学習活動に合わせて座席の配置を変える工夫がなされていました。たとえば、話し合い活動では、全員が前を向くスタイルから、いわゆるコの字型スタイルや友達と向き合うグループスタイルに変わります。そして、学びにくさのある子どもの座席は、一人一人の特性をしっかりと把握し、周囲の友達との関係にも配慮をして決められています。また、学習で使う副読本や辞書、個人用の教材等が、種類ごとや個別にスペースを設けてロッカーの中や上に保管されている学校も多いです。子どもの動線や取り出しやすさへの配慮がなされているのです。



昨年7月に来県された加藤典子氏（文部科学省特別支援教育調査官）は講演の中で、「一人一人の学びの充実に向けて求められる教師像」について、環境作りや授業づくりの視点からも話されました。その配付スライド資料を以下に引用して紹介します。

落ち着いて学ぶことのできる環境作りのヒント

- 黒板の周囲の掲示は必要最低限のものに限定している
- 一日、一週間、一ヶ月のスケジュールを提示している
- みんなで使うものの置き方や置き場所を決めている
- 提出物や宿題を出すコーナーが固定されている
- 机や椅子の消音や防音がなされている
- 不要なものが見えないようにカーテン等で覆っている
- 学習スペースや作業スペースなどを設けている
- 個人用ロッカーや机の中の整理整頓の仕方を示している
- 教師机やその周辺が整理整頓されている

ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた授業づくりのヒント

- 1時間の授業のめあてと流れを明示する
- 教科の特性に応じた授業の流れをパターン化する
- 分かりやすい発問や指示をする
- 具体物や写真等で文字情報や口頭指示を補う
- 注目すべき箇所を明確に示す
- スリットやリーディングルーラー等の補助具が活用できるようにしておく
- 活動のおわりを具体的に示す
- 多様な教材・教具を準備しておく